

No.9

ちくまさかき

# 危険物防火管理協会報

「あたりまえ」の  
意識が作る無災害！



## ～ 平成 23 年度消防庁長官表彰受賞事業所を視察 ～

9月8日から9日の日程で、京都府京都市「月桂冠株式会社」等を視察研修しました。月桂冠株式会社は平成23年度優良危険物関係事業所として消防庁長官表彰を受賞した事業所で、社員が一致団結して防災・減災に力を注いでいますが、同社の方の「当たり前のことをしているだけ」という言葉がとても力強く感じました。人命や財産を守る「あたりまえ」とは…皆さんも考えてみてはいかがでしょうか。（関連記事7面）

## 千曲坂城危険物防火管理協会

発行年月日 平成24年1月 発行人 田島光雄 発行 千曲坂城危険物防火管理協会  
編集 千曲坂城消防本部 予防課 危険物係(協会事務局)  
千曲市大字磯部1221 TEL 026-276-0119 FAX 026-276-9119  
E-mail : chikumasakaki@ag.wakwak.com

長野県北部地震を含めまして、この度の東日本大震災により被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。また、この災害により亡くなられた方々に対して心からお悔やみ申し上げますとともに、被災された地域の一日も早い復興をお祈りしております。

## 会長あいさつ

千曲坂城危険物防火管理協会  
会長 田島光雄



謹んで年の初めのご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、清々しく新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、平素は当協会に対しまして、ご高配を賜り衷心より厚くお礼申し上げます次第です。

さて、昨年を振り返りますと、日本のみならず世界が自然の脅威にさらされた大変厳しい一年だったのではないのでしょうか。オーストラリア、ブラジル、タイでは大規模な水害が発生し、2月にニュージーランドで起こった地震は多くの日本人も犠牲になりました。日本国内でも、7月から9月にかけての台風や集中豪雨により西日本を中心とした各地で発生した水害等、様々な自然災害が発生しましたが、中でも3月11日に発生した「東日本大震災」と呼ばれる超巨大地震は強烈に私の心に刻まれています。この地震は1000年に一度といわれる未曾有の大災害で、国内観測史上最大であるマグニチュード9.0を観測したそうですが、地震の揺れによる直接被害も然ることながら、後に押し寄せた津波により言語に尽くせぬ甚大な被害が発生しました。また、それに伴って発生した福島第1原子力発電所の放射線事故も併せまして、今でも多くの方が避難生活を余儀なくされていると聞き、心が痛んでおります。長野県でも3月12日の県北部を震源とする地震により栄村などで大きな被害が発生しました。当協会からも、総会の席で会員の皆様から賛同を得られたため、微力ながらそれぞれに義援金を送らせていただきましたことをご報告いたします。復興への一助になることを切に願っております。

さて、そんな2011年ではありましたが、明るいニュースもありました。6月26日に開幕したサッカーの第6回FIFA女子ワールドカップでは日本代表のなでしこジャパンが見事優勝を飾り、キャプテンの沢穂希選手が得点王、最優秀選手に輝きました。日本人選手達の活躍は、私を含め震災等で心を痛めた国民に大きな感動とともに勇気や希望も与えてくれました。

さて、当協会の事業といたしましては、9月8日から9日に会員18名による視察研修を行い、平成23年度の優良危険物関係事業所として消防庁長官表彰を受賞した、京都府「月桂冠株式会社」等を視察させていただきました。自衛消防の先駆けで、防災に関する社員教育も徹底し、非常に危機管理意識の高い同社から、防火管理や危険物の保安管理等多くのことを学ばせていただきました。また、10月には恒例の「応急手当のできる店・事業所」の救命講習会を開催したところ、例年以上となる大勢の申し込みがあり、参加した皆さんは全員優秀な成績で修了証を交付されたと聞いて、心強く感じている次第です。

昨年、千曲市・坂城町においては会員の皆様のご尽力もあり、幸い大きな事故や火災等はありませんでしたが、東日本大震災の被災状況等を念頭に置き、発生が予想されている東海地震等に備え、予防規程、消防または防災に関する計画等の再確認や見直しをお願いしたいと思っております。

最後になりましたが、今後も当協会に対し、特段のご指導・ご支援をお願い致しますとともに、会員皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶と致します。



千曲坂城消防本部「ポスター展」入選作品（金賞）  
更埴西中学校2年 中村 唯さん

## 平成23年度 通常総会開催される

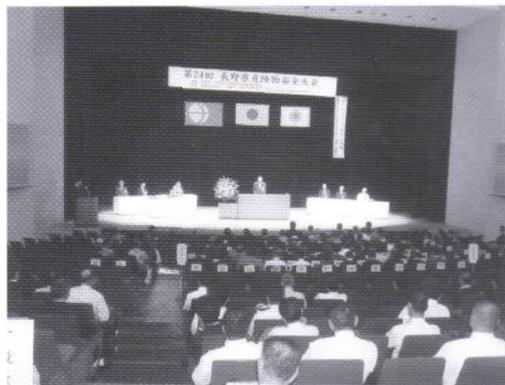
平成23年度の通常総会が5月13日（金）千曲市総合観光会館において開催されました。先ず議事審議が行われ、本年度の事業、予算等が原案どおり認定されるとともに、平成22年度事業及び決算等も承認されました。

また、役員改選も行われ、新理事に豊城美智子氏〔千曲市屋代保育園〕、鈴木繁伸氏〔千曲中央病院〕、新監事に合津康夫氏〔丸善食品工業(株)〕が就任しました。会長及び副会長を含め、その他の役員については、常任理事より留任の提案があり、審議の結果、全会一致で可決されました。

その後、総会の席上において、永年にわたり危険物の取扱いと防火管理に関して功績のあった優良事業所と優良危険物取扱者に当協会長表彰が行われるとともに、長野県知事感謝状、関東甲信越地区危険物安全協会連合会及び長野県危険物安全協会長表彰の伝達がありました。なお、それらの表彰は、6月10日に地元千曲市で開催された第24回長野県危険物安全大会でそれぞれ行われました。



## 長野県危険物安全大会が千曲市で開催される



長野県及び社団法人長野県危険物安全協会が主催する第24回長野県危険物安全大会が、平成23年6月10日（金）に千曲市更埴文化会館あんずホールで開催されました。この安全大会は「危険物の保安に対する意識の高揚及び啓発を推進することにより、各事業所における自主保安体制の確立及び一般県民への危険物に対する認識の普及を図る」という目的のため、毎年危険物安全週間（6月第2週の日曜日から土曜日まで）に県下各地で開催されているものです。

安全大会は、長野県危機管理部長及び長野県危険物安全協会長のあいさつから始まり、各種表彰（長野県知事感謝状、関東甲信越地区危険物安全協会連合会長表彰、長野県危険物安全協会長表彰）の授与、大会宣言などが行われました。当協会からも5名、3事業所が受賞され、受賞者を代表して長野県知事から感謝状の贈呈を受けたフレックスジャパン株式会社の取締役 五明隆志氏が謝辞を述べました。また、当協会の田島会長が声高らかに行った大会宣言は参加者全員から承認及び賛同を得ました。

大会後半に行われた、千曲市羽尾在住の信州大学名誉教授で理学博士の塚原弘昭氏による「長野県の活断層と地震」と題した講演は、東日本大震災直後ということもあり、非常に有意義なもので、大会参加者以外にも多くの方が聴講に来られました。



※今年度表彰された受賞者の方々は次のページで紹介します。

## 平成23年度受賞者

### ●長野県知事感謝状

【優良事業所】

フレックスジャパン株式会社

### ●関東甲信越地区危険物安全協会連合会長表彰

【功労者（個人）】

若林俊樹「千曲坂城危険物防火管理協会」

### ●社団法人長野県危険物安全協会会長表彰

【優良事業所】

社会福祉法人大志会 特別養護老人ホーム森の里

社会福祉法人千聖会 特別養護老人ホーム香風園

【優良危険物取扱者】

小林照昌「千曲市第1学校給食センター」

細川克彦「地方職員共済組合戸倉保養所名月荘」

林秀樹「有限会社キリンシステム Y24」

竹内勝一「ちくま農業協同組合中之条セルフサービスステーション」

### ●千曲坂城危険物防火管理協会会長表彰

【優良事業所】

葛尾組合

【優良危険物取扱者】

河村洋一「エムケー精工株式会社」

※敬称略



## 防火管理者講習会・防火管理者会議開催



甲種防火管理講習会が6月1日、2日（千曲市更埴文化会館）、10月6日、7日（消防本部）の2回開催され、計119名の方が受講されました。

講習会では防火管理の意義・制度及び関係法令の講義から始まり、防火管理対策や各種消防用設備の維持管理、地震対策等について学び、2日目の午後には効果測定（試験）、消火器及び屋内消火栓を使用した模擬消火訓練や煙体験訓練等の実習を行い、効果測定では受

講者全員が無事合格、修了証が交付されました。

この講習会を受講した皆様が、防火管理者に選任された際には、お客様や従業員の命を守る防災の責任者として活躍されることをご期待申し上げます。

また、11月8日には千曲市戸倉創造館に於いて、火災予防運動・防火管理・火災予防条例等の主旨の徹底と周知を目的に防火管理者会議を開催し、184名の方が出席されました。

新年を迎え、厳寒期となるこの時期は、暖房機器の使用が本格的になるとともに火災危険も増加します。防火管理者の皆様には、今後もより一層の火災予防に努めていただきたいと思います。



## 東日本大震災発生 !!

平成23年3月11日(金)14時46分頃、三陸沖を震源とする「東日本大震災」が発生、日本における観測史上最大のモーメントマグニチュード9.0を記録したこの地震では大津波などの影響もあり甚大な被害が発生しました。また、翌日の3月12日(土)には長野県北部を震源とする地震により栄村を中心に大きな被害が発生しました。緊急消防援助隊として救助活動等に当たった千曲坂城消防本部、物資等を運搬し被災地の支援に向かった千曲市も含め、会員事業所からも多くの方がそれぞれの被災地に駆け付け、復興支援等様々な活動に当たったものと思われます。

当協会でも、5月13日の理事会の席上で「義援金を送ろう！」という意見が上がりましたので、その後行われた通常総会の席で会員の皆様にお諮りしたところ、全員から賛同を得られましたので、微力ながらそれぞれの被災地に義援金を送らせていただきましたのでご報告いたします。9月21日に、東日本大震災被災地へは日本赤十字社、長野県北部地震は栄村の義援金専用口座にそれぞれ振り込みをいたしました。

### ◆義援金の内訳◆

送金先	金額
東日本大震災被災地	50,000円
栄村	50,000円
合計	100,000円

## 千曲坂城消防本部 緊急消防援助隊活動の記録

### 1 派遣経過

- 3月11日 16時40分 総務省消防庁から長野県へ出動要請  
 16時45分 長野県から千曲坂城消防本部へ出動要請  
 17時34分 第1次千曲坂城消防本部緊急消防援助隊 宮城県へ出動  
 3月28日 5時00分 第6次派遣隊本部に帰隊(派遣部隊を縮小したため)

### 2 活動部隊 消防隊、救急隊、後方支援隊

### 3 活動車両 更埴署ポンプ車、戸倉上山田署救急車、戸倉上山田署支援車

### 4 派遣実績 3月11日から3月28日まで 計18日間

	活動期間	隊数	人員
第1次派遣隊	3月11日から3月14日まで	3隊	10名
第2次派遣隊	3月13日から3月16日まで	3隊	10名
第3次派遣隊	3月15日から3月19日まで	3隊	10名
第4次派遣隊	3月18日から3月22日まで	2隊	7名
第5次派遣隊	3月21日から3月25日まで	2隊	7名
第6次派遣隊	3月24日から3月28日まで	2隊	7名
計		15隊	51名



# LP ガス・灯油タンク巡回指導実施

危険物安全週間（6月5日から11日まで）に併せて、一般家庭の灯油用ホームタンクやLPガスの安全性を調査・指導する巡回指導を、千曲市八幡（郡）地区において千曲坂城消防本部と長野LP協会長野支部と共催で6月8日に実施しました。

LPガスは、ガスボンベ転倒防止用の鎖が緩んでいたり位置が悪いもの、圧力調整器が古いものなど若干の問題点が数件確認されたものの概ね良好に設置されていました。ホームタンクは地震などの揺れに対する転倒防止対策（脚部固定等）や灯油が漏れ出した場合の流出防止対策（防油堤等）が施されていない家庭が、他地区同様多く見られました。



東日本大震災では津波の影響がなかった地域でも、ガスボンベやタンクの転倒が多数見受けられたそうです。また、冬期は暖房用の燃料として灯油の使用量が増えますが、それに伴って、小分け中にその場を離れたためポリタンクから灯油が溢れ流出した、腐食し穴の開いた配管から灯油が流



出するといった事故も多くなります。灯油などの危険物の流出は、火災が発生する危険性が高くなるのはもちろんのこと、土壌や水質汚染なども含め広範囲に重大な影響を及ぼします。是非ともこの時期に配管などタンク周辺の安全確認を行いましょう。

また、灯油やLPガスの販売及び配達業務を行う会員の皆様には、取扱いの専門家として、顧客の皆さんに事故防止のための積極的なアドバイスをお願いします。

## 事故が増えています!! 灯油をただしく 貯蔵・取扱いしていますか

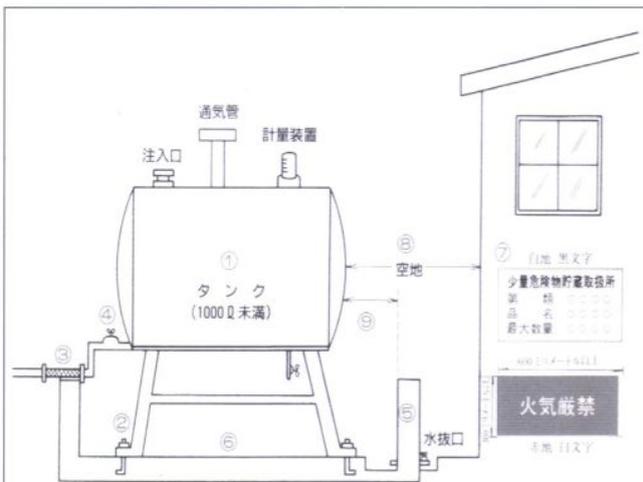
### 貯蔵・取扱いできる量



※届出・許可については、消防署に問い合わせてください。

### もしも流出事故になった場合

それ以上拡大しないようにするとともに消防署と千曲市生活環境課（Tel273-1111）又は、坂城町住生活環境課（Tel82-3111）に通報してください。

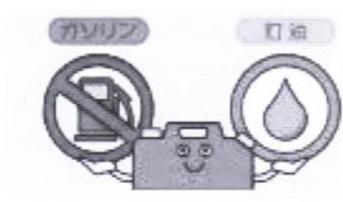


- ① タンクの外面にサビが見られたら塗装をする。
- ② タンクが転倒しないよう脚を固定する。
- ③ 配管には緩衝装置を設ける。
- ④ 配管は金属管を用い、タンク直近に開閉弁を設ける。
- ⑤ タンク全容量を収納できる、流出止めをコンクリート等で造る。
- ⑥ 流出止め内には、ゴミ等を放置しない。  
又、雨水を排出する水抜口を設ける。
- ⑦ 貯蔵・取扱っている付近に標識・掲示板を設ける。
- ⑧ 500ℓ以上1000ℓ未満は1メートル以上の空地が必要。
- ⑨ 500ℓ以上1000ℓ未満は0.5メートル以上の距離が必要。

# 灯油用ポリタンク等でガソリンを備蓄するのは大変危険です!!

## ガソリンをポリタンクで備蓄するとなぜ危険なの？

- ・ガソリンが容器を溶かすことがあります。
- ・静電気がたまりやすく開栓時に火花が発生して引火することがあります。  
※ガソリンの引火点は-40℃なので真冬でも引火します。  
※ガソリンは常温でも気化します。
- ・気密性が低いと可燃性蒸気が漏れることがあります。  
※ガソリン蒸気は空気より重いので拡散せず低所に溜まっており、思わぬところで着火することがあります。
- ・灯油と間違えやすい。  
※ガソリンをストーブに入れて使用すると異常燃焼を起こし火災になります。



## ガソリンの備蓄について

- ・ガソリンの買ひだめは極力控えてください。
- ・消防法令に適合した金属製容器を使用してください。
- ・40ℓ以上のガソリンは消防法令に適合した場所に保管してください。  
※40ℓ以上200ℓ未満は届出、200ℓ以上は許可が必要です。

ラベルのついた  
確かな製品を  
選びましょう

「試験確認済証」が安心の印です。

ガソリン携行缶には、使用上の注意事項が表示されています。よく読んで安全にお使いください。このラベルは、消防法による科教育施設等に合格したガソリン携行缶に貼付されています。

詳しくは消防署にお問い合わせください。

秋の火災予防運動 11月9日～11月15日

春の火災予防運動 3月1日～3月7日

消したはず 決めつけないで もう一度

つけましたか？ 住宅用火災警報器！

火事と救急車は119番

埴科消防協会 千曲市消防本部

千曲市消防本部 千曲市消防団 埴科消防団

# 第32回 防火ポスター展 金賞6作品決定

防火ポスター展は例年、児童生徒の防火意識の高揚と火災予防思想の普及を図るため行われます。今年度は戸倉上山田・坂城地区を中心に各小・中学校の皆さんから力作453点が出品されました。厳正な審査の結果、中村 唯さんの作品（1頁参照）が最優秀賞として、消防本部が発行する今年の防火カレンダーに、そして優秀賞として高松苗希さん、伊藤夏希さんの作品（左図参照）が、埴科消防協会と当協会等が発行し、各戸に配布する今年度の防火チラシの図案としてそれぞれ採用されました。

- ◎金賞入賞者の方は次の方々です。
- |          |       |          |       |
|----------|-------|----------|-------|
| 更埴西中学校2年 | 中村 唯  | 更埴西中学校1年 | 高松 苗希 |
| 埴生中学校2年  | 伊藤 夏希 | 更級小学校5年  | 西澤穂乃香 |
| 南条小学校5年  | 米田 陽和 | 東小学校6年   | 小出祥太郎 |

## 協会視察研修



9月8日から9日、滋賀県「国立印刷局彦根工場」、京都府「月桂冠株式会社」等への視察研修が行われました。詳細な研修記を、株式会社坂城町振興公社 高見澤正浩様にお願い致しました。

### 平成23年度千曲坂城危険物防火管理協会 視察研修に参加して

株式会社坂城町振興公社 高見澤正浩

去る9月8日、9日に当協会の視察研修が行われ、参加させていただきました。研修の第1日目は、滋賀県の彦根市にある「国立印刷局彦根工場」を視察しました。施設に到着後、展示資料室において、彦根工場の概要を口頭で説明を受けました。その後、業務内容、お札の歴史、製造過程をビデオにて学習しました。この施設は、昭和19年に現在とは別の場所で設立され、昭和40年には、現在の場所へ新工場を建設し、大型印刷機の導入や設備の近代化を図り、西日本唯一の日本銀行券製造工場としてスタートし、その後、平成15年に独立行政法人となり現在に至っています。

精密・精巧・美しさを常に追求し製造している印刷局ですが、独立行政法人となった平成15年には、行政の民営化という世の中の流れの中、印刷局も民営化という声が多くあったようですが、紙幣を作る技術が世の中に流出してしまう恐れがあるため、独立行政法人となったそうです。中で働く人も守秘義務があるため、すべての人が、国家公務員で構成されているようです。ビデオの説明では、紙幣という責任あるものを作っており、ひとつの間違えが世の中の大きな混乱につながるため、毎日常に緊張感をもって仕事をしているということです。「ものすごくプレッシャーのかかる仕事ですが、これが自分の使命だと思い、誇りをもって仕事をしています。」とのコメントを多くの職員の方が述べていました。そのような真剣な取り組みの結果、日本銀行券は、世界でもトップレベルの偽造防止技術の導入がされており、偽造が困難とのことでした。

この施設の研修を通して、国立印刷局の方々の仕事へ向き合う姿勢は、危険物の取扱いにも通ずるものがあると感じました。より良いものを作ったり、より生活が便利になるよう、機械の燃料として危険物を使っているわけですが、ひとつ間違えれば、多くの人が危険にさらされるものです。危険物取扱者や防火管理者も常に緊張感をもって日々の仕事に取り組むべきだと改めて感じました。

第2日目の視察場所は京都府京都市の「月桂冠株式会社」を視察しました。この会社では、月桂冠大倉記念館のVTR鑑賞室にて、危険物の取扱いや防災、減災の説明をしていただきました。この月桂冠株式会社は伏見区危険物安全協会に加入しており、平成23年度消防庁長官表彰受賞事業所となった非常に危機管理の高い事業所でした。

月桂冠では、現在、総合研究所実験室などで危険物を使用しているとのことですが、徹底した管理のもと、取扱いをしているようです。危険物の取扱いの表示については、毎日朗読してから仕事に取り組む。他にも劇物の保管表示、指定数量の表示。震災などに備えた予防の対策。事故の防止のため、毒物の保管庫の施錠、毒物の保管表示も徹底



するなど、細かい所まで配慮した取り組みがされているようです。

防火に関しては、江戸時代初期から酒を製造しているため、アルコールの蒸発による火災などに備え、自衛消防隊を編成し、それらの歩みの中で、近隣への配慮のために、80坪の土地や建物及び消防車の寄贈なども行ったそうです。自衛消防隊は、消防訓練をはじめ、防災センター体験、防災研究所研修、



普通救命の資格の取得、新入社員やパート職員の研修なども行っているとのこと。普通救命の資格は320名が持っており、会社の98%が取得。また、地域との連携も図っており、震災時の給水活動や近畿地区の病院と災害協定を結び、阪神淡路大震災や新潟県中越地震、東日本大震災の際にも給水活動を行ったそうです。

これからの月桂冠株式会社の防災の課題としては、従業員への消防計画の周知・防災設備品の充実について考えていきたいとのことでした。

この施設の研修をして、月桂冠の事務局の方は、うちの会社は事故や防災の予防に「当たり前のことをしているだけ」と何度となく口にしていたことが印象に残りましたが、私たちは、なかなか当たり前のことができません。「災害はいつ襲ってくるかわからない」という言葉をよく耳にしますが、私は、人間は自分が体験してみないと分かっているようでも、「自分は大丈夫だ」と思ってしまう生き物のような気がします。しかしそれでは手おくれです。研修1日目の印刷局の視察の感想の繰り返しになりますが、日頃からの減災、防火に対する意識の高さや活動がとても重要となると思いました。

今年は、東日本大震災や台風12号などにより日本各地で、たくさんの被害が出たり、多くの人の命が失われました。私たちは、もう一度命の大切さを考え、減災や防災などに真剣に取り組んでいくべきだと思います。知識のある人は少しでも多くの人へその知恵を広め、皆で協力し、助けあって生活していくことが大切だと思います。私もこの研修で学んだことを活かし、皆が笑顔で幸せに生きられる町づくりに少しでも貢献ができたと思います。

最後になりましたが、この研修でお世話になりました協会会長様並びに、消防本部関係者と一緒に研修に参加して色々教えていただきました皆様には、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 心肺蘇生法を知っていますか？ 「応急手当のできる店・事業所」普通救命講習会を開催



⑩ 心肺蘇生法再開  
(⑤+⑥、⑨+⑩  
の繰り返し)



⑨ 電気ショック



⑧ 心電図の解析  
「離れてください！」



⑧ AED 装着

今年も恒例の「応急手当のできる店・事業所」普通救命講習会を10月13日、14日にそれぞれ開催しました。この講習は、事業所内及びその周辺で発生した救急事故等の傷病者に対し、従業員等が積極的に適切な応急手当を行える職場環境を整えることを目的としたもので、会員事業所から両日併せて68名の方が受講されました。

講習は、千曲坂城消防本部応急手当指導員の実技を中心とした講習で、受講した会員の皆さんは熱心に講義を聞き、真剣に取り組んでいました。最後に行われた筆記、実技の効果確認(試験)には全員が優秀な成績で合格され、すべての方に修了証が交付されました。

救命講習を修了された方が2名以上いる事業所には、当協会が交付する「応急手当のできる店・事業所」の表示板を掲示することができます。申請された事業所には表示板の他、応急用品の配布も行っています。該当する事業所がありましたら、ぜひ申請をお願いします。

また、この講習は新規受講者を対象として2月にも予定しておりますので、受講を希望される方がおりましたら、申し込みをお願いいたします。



① 意識の確認  
「大丈夫ですか？」



② 助けを呼ぶ  
「誰か来て！」



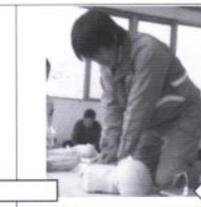
③ 119番通報と  
AED 持参の依頼



④ 気道確保と  
呼吸の確認



⑦ AED 到着



⑥ 胸骨圧迫  
(心臓マッサージ)



⑤ 人工呼吸

## 普通救命講習会を受講して

特別養護老人ホームさかき美里園 介護職員 大坪 健太郎

今現在、空港や駅、催し物ホール、デパートやスーパー、病院など、色々な場所にAEDが備え付けであり、実際私もこの目で見た事がありますが、恥ずかしい話AEDの使用の仕方が分からず、この講習会でしっかりとAEDの使用の仕方、重要性を理解しなくてはならないという強い気持ちを持って参加を致しました。



講習会では、心肺蘇生法、AEDの使用手順、その他応急手当を丁寧に教えて頂き、又、実技練習も行いました。私達の職場では、高齢者の方々が生活を送っております。いつ何時、何が起きても不思議ではなく、急変時に、いかに冷静に応急手当救命処置が出来るかが介護職員として大事だと感じました。日頃から、救命の意識を持ち、又、勉強をして、迅速に冷静に対応できる様、精進していきます。

## 住宅用火災警報器の設置はお済みですか？



消防法の改正により、すべての住宅に  
設置が義務づけられました！



平成16年6月の消防法改正により、すべての住宅の寝室等に住宅用火災警報器の設置が義務付けられ、千曲市・坂城町においては、千曲坂城火災予防条例で、平成18年6月1日からは新築住宅、平成21年6月1日には既存住宅においても設置・維持しなければならないと定められました。

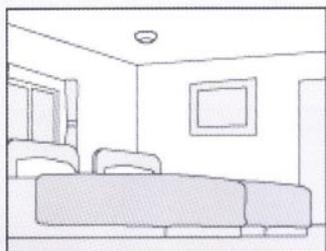
しかし、総務省消防庁から発表された平成23年6月時点での住宅用火災警報器の普及率は、全国平均が71.1%であるのに対し、長野県は69.6%と平均を下回り、更に千曲坂城消防本部管内の普及率は51.9%と、県下14消防本部中最低の普及率となっています。

そこで、千曲坂城消防本部では緊急雇用創出事業を利用し、今年度住宅用火災警報器普及員を採用し、管内すべての住宅を回り、設置推進を図っています。まだ、設置されていないご家庭がありましたら、火災が多くなるこの時期にぜひ設置しましょう。設置場所や警報器の種類等不明な点がありましたら、住宅用火災警報器普及員、千曲坂城消防本部または最寄りの消防署にお問合せください。

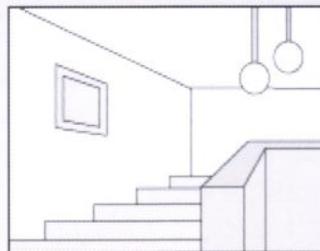
### どこに設置するの？

取り付け場所は、寝室と階段(寝室が1階の場合は、階段への設置義務はありません。)

#### 1 まずは寝室



#### 2 つぎに階段



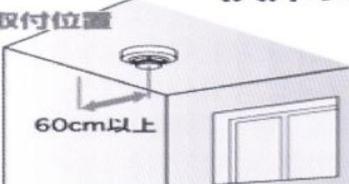
### 取り付け方法は？

#### 〈天井の場合〉

##### ▼通常の壁面からの取付位置

火災警報器の中心を壁から60cm以上離します。

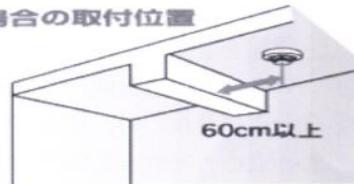
60cm以上



##### ▼梁などがある場合の取付位置

火災警報器の中心を梁から60cm以上離します。

60cm以上



##### ▼エアコンなどの吹き出し口付近の取付位置

換気扇やエアコンの吹き出し口から1.5m以上離します。

1.5m以上



#### 〈壁面の場合〉

天井から15～50cm以内に火災警報器の中心がくるように取り付けます。

15cm

50cm



※平成15年以降、住宅火災による死者は全国で1,000人を超える高水準で移行しており、そのうち約9割が住宅火災によるものです。また、死に至った原因として「逃げ遅れ」が約7割と非常に高く、その大半は65歳以上の高齢者が占めています。今後も高齢化は進展するため、更なる増加が懸念されているところですが、設置義務化以降の平成17年に火災による死者数が1,220人(放火自殺者等除く)を記録した以降、減少傾向が続いていることから、住宅用火災警報器の普及が死者数減少に寄与していることが推察されています。

## JAちくま共同経営 西部セルフSS



～今回は 西部セルフSSさん  
KYB-YS株式会社さん です～



当SSは、一昨年の12月にちくま農協の2ヶ所目のセルフスタンドとして、新規オープンいたしました。それまでは、当SSの近くにありました八幡SSにおきまして、長らく、組合員様を始めとする地元のお客様にご愛顧いただきました。

場所は、千曲市の名所である武水別神社の西方に位置し、上田―篠ノ井バイパスの「八幡公民館西」の信号、上り線に面しております。オバステに近いこともあり、シーズンには県外のお客様にも利用していただいております。昨年4月より、全農長野が経営に参画するようになりました。

スタンド内には、燃料油4レーン、灯油専用1レーンと、セルフ洗車機が1基あります。構内は広々としており、大型車の給油はもちろん、洗車後の拭き取りも、同時に何台か余裕をもって行えます。営業時間は、現在のところ朝7時より夜9時までとなっております。

スタッフ一同、お客様とのふれあいを大切に考え、法令を遵守し、事故の無いように務めてまいりたいと思います。今後も、危険物防火管理協会様及び各関係者の御指導をよろしくお願い申し上げます。

## KYB-YS株式会社

KYB-YS株式会社は坂城町に1946年に創業し、今年で創立65周年を迎え、「柳沢精機製作所」から4月に社名変更をいたしました。事業内容は、自動車のハッチバックドアのガス緩衝器であるステイダンパーが代表するガススプリング製品と、建機ショベル、フォークリフトなどのアクチュエーター部である油圧シリンダー、それを制御する油圧バルブの油圧製品とエンジン部品用アルミ加工品の製造をしております。

ガススプリング製品は、日本でトップの生産量があり、新幹線の座席のリクライニングには、当社のフリーロックというガス製品が、100%装着されております。また、油圧シリンダーは、当社を含めたKYBグループで車両重量5トン以下のショベルでは、約70%のシェアを持っています。

当社では東日本地震の発生により高まった防災意識の中で、火災に対してはライン単位でのリスクアセスメント評価で、対策を立案し100%改善達成で進めています。また地震対策では、工場建屋の耐震対応、避難通路と避難場所確保のために設備転倒、落下防止対策で、人命を第一に考えて進めています。

つきましては今後とも、危険物防火管理協会ならびに関連機関のご指導・ご協力を頂きながら商品やサービスはもちろん、安心・安全も地域社会に貢献できますよう、全社員心がけていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 編集後記 ～今年辰年。『竜にまつわることわざ』をご存知ですか?～

昨年は、台風や東日本大震災などの災いが次々に各地を襲い、日本列島はまさに『虎口を逃れて竜穴に入る』といった状況ではなかったでしょうか。しかし、昨年末に発表された2011年の世相を表す漢字が「絆」であるように、被災地では地域の安全・安心のため、日本のみならず世界からの支援を受け、地元住民が手を取り合い、復興に向けて歩み始めています。多くは立身出世に使われる『登竜門』という言葉は、成功へと至るために乗り越えなければならない難しい関門のことを表すそうです。復興までの道のり（登竜門）を、国民が手を取り合い、なでしこジャパンのような強い絆で乗り越え、安心・安全な国 NIPPON を作った成功者になりたいですね。

